第３回熊谷市地域公共交通会議

●日時　平成 21 年 7 月 27 日（月曜）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
●場所　熊谷市役所 303 会議室
●出席者　委員 20 名、随行 1 名、熊谷市 4 名
●欠席者　委員 1 名

●内容　（1）国際十王バス株式会社の取組みについて（報告）

○籠原～日赤間のバス運行　（減便）

赤字路線であり、１週間の乗降者の調査をした。
調査結果に基づき平成２１年８月１日から減便をする
平日５７本⇒３３本　　休日４２本⇒２８本

○うちわ祭パーク&ライド

今年で２年目の取組み。
スポーツ文化公園⇔熊谷駅　片道１５分間
特にトラブルも無く運行できた。
（利用者数）２１日：のべ 485 名　２２日：のべ 718 名
（課題）熊谷駅で乗客を乗せるとき、お客が集中しすぎて、乗せることができない場合が出てしまった。

●質疑応答

・赤字だから減便することについて、国の立場ではすぐにＯＫをだしてしまうのか。公共交通であるから簡単に受け入れるのか。
⇒届出は受ける。
・企業だからしょうがないが、赤字を解消するために減便ではなく他の方法を模索して欲しい。

（2）ゆうゆうバスアンケート結果について（資料１）

アンケート数　１，１３６通

●質疑応答

・アンケート結果を見ると、料金を上げてもバスを充実して欲しいとあるが、どれくらいあげれば良いのかわかりにくい。

（3）循環バス運行についての意見交換（資料２，３）

【利用者の意見】

・江南地区の人は、バスは熊谷駅への接続を望んでいる。
・江南地区の人は、籠原駅へ接続しても喜ばない。
・妻沼地区では、循環を便利に使っている。行政センターと各駅の往復ルートは使いにくい

・料金は上げてもいい。ルートを妻沼地区で広げて欲しい場所がる。大田小学校周辺と上須戸地区。増便は費用がかかるが、ルートを広げるのは費用がかからないように思う。
・路線バスは料金が高い。循環バスは、時間がかかるが安いので良い。
・江南地区から熊谷駅まで送迎している家庭を多く見かける。
・新しいルートの設定には、地元自治会との調整が必要だ。自分だけでは決められない。

【循環バス業者の意見】
・循環バスを運行するには、車検等の場合に必要となる代車も買わなくてはならない
・７時～２１時の運行では、バス１台について運転手が２名必要

【タクシー業者の意見】
・循環バスの利用が少ない場所には「乗合いタクシー」を運行することも視野に入れて欲しい。
ジャンボタクシー：９人乗り

【行政への意見】
・新しい循環バス設定には、裏づけとなる調査、数字が必要ではないか。
・バスが新しいルートを通る場合、道路管理者には、バスのサイズを知らせるようにして欲しい。
・地球温暖化対策を目的におくのであれば、バスの選定にも燃料も環境に配慮したほうが良いのでは。

３　その他

（１）小委員会の設置について

一段と踏み込んだ意見交換をし、現実的なルート素案を作成するため小委員会を設置したい。

～～承認～～

●目　　的　循環バスルートの素案作成
●メンバー　市内バス・タクシー業者、市民代表者、市民団体代表者、国、県
●第一回会議　１０月２日（金）１４時　３０３会議室
ただし、非公開